

!!小さい頃は弱くて!!

熊本の頤台小学校を卒業しました。小さい時は身体が弱くて一週間に三ペンは病院がよいをしていました。ものすごく弱かったですね。だから、みんなと一緒にどこかへ遊びに行くとか、桜の時期になりますと水前寺公園に花見に行くとか、とびはねてどうこうというところは割となかったですね。いつも着物を着せられて割に行動の動きにくいものを着せられていたんです。すぐ風邪をひいたり、おなかをこわしていたもんですから。

藤崎宮の近くに住んでいました、あの頃は子供だったからコンクリートになった道がものすごく広かったという記憶があるんです、ゴム跳びやったりしていましたが、それがデビューしてから帰ってきまして、とっても狭いですね。

小学校を卒業した頃、父の仕事のこともありましたが、私に歌を勉強させたかったということもあって家族そろって上京しました。

小さい時から習いものはかなりやっていまして、ピアノ、習字、絵とか日本舞踊とかやりましたけども、その中で一番続いたのが歌でした。好きだったんですね。ただ自分では歌い手になろうとか、小さい時は全然思わなかったんです。東

京へ出てからレッスンにかよって、家も

働いてかよわしてくれらるんですから、本当のところ歌い手になりたいというより歌い手にならなければ生活がなっていないというところから始めた歌い手ですから、好きだけというのとちょっと違ったもんですからね。

中学のおわりぐらいから、歌い手にならなければ強く自覚するようになりました。それまではなんでこんなに歌わされるのかなあというぐらいの感じでした。中学の頃は、夜間の音楽学校には入りましてギターをさげて一人で目黒から練馬の桜台というところまでかよってました。夜の十一時頃までかかるんです。なんでこんなにやるのかなあって子供心に思っていて、物心ついてから歌い手になるという気が強くなってききました。

!!家族には苦労かけた!!

私の場合は、家族の理解というよりも、家族が歌い手にしたかったというのと、私自身、歌が好きだったというのが重なったんですね。勿論、家族には月謝を払うためのおカネの苦労もさせましたし、家族ぐるみで応援してくれまして、それに応えなければいけないという感じ

お客様で、ステージの上の者は厳しく唄わなければいけないと思います。

!!何事も精神力!!

デビューして十五年になりますが、苦労したとは思いませんけど、デビュー当時から一つだけ、いわゆる会社員と同じだという感覚は非常に持っています。変ないい方ですが、歌い手の世界で通用しない人はどこへ行ってもだめですし、会社でだめな人は歌い手になってもだめだろうという感覚は常に持っています。健康については別にこれといって気をつけていることはありません、注意するとかえっていけないようです。

何事も精神力の問題だと思います。歌い手でなくても、例えば魚屋さんでも朝早く起きて、仕入れに行くのも本当に大変で私なんかとてもとまりそうにないです。ただ、歌い手というのは歌を唄っていて良いなあと思われたらとても心外に思いますけど、普通の仕事をなさっている世界とちとちと変わりないと思います。

!!歌い手のイメージに!!

あまり最近ではドラマに出ませんけども、これはちょっと続きすぎたものから、「ありがと」がヒットしましてね。あんまりイメージが強かったもので

でした。

!!私のファン!!

ファンの層が幅広いといわれるのは、例えば、男の人でいえばパツと見て男っぽい感じを与える人と、ファツとした感じを与える人がいるでしょう、私はそういうファツとした感じの部類でしかありません。だから安心して見ていられるんだと思います。いわゆる特種な感情をもたずに聴いていただけるのだということでしょう。

私が歌の内容でものすごく女っぽい歌を唄ってしまったり不自然なところが出てきましてイライラすることもありますが、そういうところが全然ないもんですから割とスツツといってるみたいです。それと歌の傾向といえますか、男っぽくて、こうしなくてはいいなみたいな歌を唄っていますと、人間というものはおかしなもので性格がだいぶ変わりますね。

私は人見知りをするというか、初対面だとスツツとはいって行くタイプじゃないんです。ところがステージにあがるとそれがまるでなくなるんですね。商売と割切るといいますか、だから歌でもこうしなけりゃいけないみたいなのがありますので歌でだいぶ性格が変わりました。職業ですからね。甘いことも言ってい

れませんか。

!!心で聴いてもらいたい!!

歌というのは心で唄うというよりも、聴く方が頭で聴いてもらいいたくないという感じですね。歌というのはいろんな種類のものがあって、寂しい時には寂しい歌が頭に浮かんでくる。それはきっと頭で唄うのではなく心で唄うのですから、歌い手が心で唄うということではなく、聴く方が心で聴いてもらいたいということにつながるんじゃないでしょうか。

歌い手の方は商売ですし、うまく唄わなければいけないし、陶酔して唄った歌というのはよくないですね。歌い手の場合は不思議なもので、録音機などでも「今日はよく出来たなあ」と思うときは決してよくないですね。

神経を使いながら、お客さんの反応をみながら、何かを考えながら歌い手は唄わなければいけないと思います。それが聴く方にどう伝わるかということなんじゃないでしょうか。よく歌い手さんの中には、その歌に酔って唄うとか、その歌の中にのめりこんで唄うという人がいますけど、私は商売としてはそれではいけないんじゃないかと思えます。

自分だけが楽しんでいいけないのであって、楽しむのはステージから向こうの

すから、ちょっと歌い手というイメージを取り戻そうと思っています。私はもともと器用ではありません。司会もやりませんが一人一倍ドキドキするんです。

ドラマでも、本読みには出ませんが、本番入って何回かテストがありますね、その時はとっててもれくさくて出来ないんです。ところが本番だけ出来るんです、私は変わっているのかもしれないですね。

ただ、練習というか台本なんかは人が見えないところで読みますし、覚えようと努力はしますけど、せつぱつまらないと出来ない性格ですね。だから紅白の司会をやりましたときもあがっていましたが、毎年紅白のときはあがりませんでした。年をとりますとドキドキの度合が大きくなってきますね。

やはり若い人ばかりになると先輩が間違っはいいけないということもありまして、よけいドキドキするわけです。みんなは嘘だといいますが、本当なんです。ただ舞台にでるともうしようがない、と思うわけです。それと一年の力をここで出さないと出すときはないという割切りがつくんですね。それがまあ今までは間違ってもなく行ったということだと思います。

!!精魂を尽し颯爽たれ!!

好きなことばは、まえば「不言実行」

ということばがとっても好きだったんです。熊本人のせいと言って出来ないとはずかしいところがありますから、なるべく人に言わないで出来た時に出来ましたという方が好きな性格でしたけど、最近とはかく一日一日が一生懸命でありたい、というところで「精魂を尽し颯爽たれ」ということばが好きで、認められなくてもいいから、とにかく一所懸命に頑張るって気持ちの中だけ颯爽としていようという感じですね。

今までは割とかっこいいことばだと思つて四年ぐらい前までは「二番」という言葉が大変好きで、二番というのは一番になると追い越されるし、三番にはなりたくないし、それに二番だと一番を追い越せるという望みがあるという意味で、二番ということばを言ってきたんですが、何年前かに考えてみましたら、とってもずるい考えじゃないかと思ひましてね。非常に逃げ道のあるというか、これではいけないと思つてとにかく一番にならなければいけないと、追い越されたときは、その時はその時なんだという感覚になって、今日とにかく一番になろうと思つています。

!!肥後モッコスは大事に!!

最近「肥後モッコス」というのは大変いい意味にとられていますが、悪い意味もあるんですね。私が「二番」とい

うのは肥後モッコスではないかと思うんです。

熊本の人はとつても引っこみ思案なところがあるんですね。だから応援したくてもテレクサイところがあるんですね。やさしい言葉をかけてやりたいと思つても、なんか逆の言葉が出てしまつとか、私もそうなんです。

それがとつてもいいところで、もう一つそれを前に出さなければいけないと思います。

「肥後モッコス」は熊本人特有の性格ですから、大事にしていきたいですね。

私はデビュー当時は、故郷に帰りたくないようなことを言ったと思うんです。それはいやな意味ではなくて、応援してくれないんじゃないかなあという感覚がありましたからね。応援したくても口に出さないとこがあるもんですから、自分が寂しくなるでしょう。

最近ではストリートになってきて、こうして熊本に来てみんなが熊本出身だということばで応援してくださって、非常に有難いと思います。とつてもいい故郷であつてもいいと思つて、みどりもきれいで、花もきれいで、みどりもきれいで、何年前から熊本に帰りたいなあという気が強くなっています。